

渋川医療センター

広報誌



第42回 渋川へそ祭り 写真提供: 渋川市

基本理念

北毛地域の基幹病院として地域の医療機関と連携し、その役割を果たします

基本方針

1. 患者さんの気持ちに寄り添った医療を実践します
2. 十分な情報を提供し、共に考える医療を行います
3. がん・呼吸器疾患・重症心身障害児(者)の専門病院として社会に貢献します
4. 地域医療支援病院として、救急医療を含め地域の医療機関と連携し地域医療に貢献します
5. 生命の尊さと人権を尊重し、安全な医療を提供します
6. 教育・研究事業に積極的に取り組み、質の高い医療を常に目指します
7. 良質な医療を継続的に確保するため、健全な経営と適正な運営に努めます

【目次】

医療安全を考える日	1
重症心身障害病棟「夏祭り」	2
地域医療支援チーム	3
渋川医療センターマスコットキャラクター	4
職場紹介	
臨床工学技士	5
認定看護師紹介	
皮膚・排泄ケア認定看護師	6
シリーズ	
●患者さんにとって耳よりな情報	
後発医薬品のある先発医薬品(長期収載品)の選定療養について	7
良い睡眠から健康になろう	8
●外来診療担当医表	9
●セカンドオピニオン担当医表	11
●患者さんの権利	11
●看護の理念、看護の基本方針	11
●編集後記	11

医療安全を考える日

副院長(医療安全管理室長) 松本 守生

To Err is Human (人は誰でも間違える)という言葉があります。1999年にアメリカで発表された医療過誤の報告書のタイトルです。日々の医療現場において、私たち職員は常に患者の安全を最優先に考え行動しています。各部門では「医療安全の文化」を醸成しそれを確実に定着させるために、毎年目標を立て実践してきました。それでも「ミスをゼロにする」ということは達成できません。なぜなら「人は誰でも間違える」からです。



院内巡視の様子

厚生労働省は「患者の安全を守る」ことを旨とし、総合的な医療安全対策を推進するために、2001年から11月25日(いい医療に向かってGO)を含む一週間を「医療安全推進週間」と定めました。当院でもこの時期に病院職員全体に対して医療安全を啓蒙してきましたが、今一つ周知できていないのが実情でした。

高橋院長は昨年4月の就任と同時に医療安全に力を注いできました。昨年8月7日に開催された病院全体での事例検証会を機に「全職員が医療安全を考える日を作る」と明言し、毎年7月15日を当院の「医療安全を考える日」と定め、さらに院内迅速対応システム(RRS)の導入や各診療科コール体制の整備を強いリーダーシップで押し進めてきました。

2025年7月15日は第一回「医療安全を考える日」でした。第一部では病院幹部と医療安全管理室メンバーによる院内巡視を行いました。第二部前半は各部門による今年度の医療安全の取り組み発表を行い、自分たちの目標を再確認するとともに他部門での取り組みを知ることで「医療安全文化」を改めて認識しました。第二部後半は今年度の取り組みの目玉である「RRS」について、関本麻酔部長(医療安全部会長)に講演をしてもらいました。

「医療安全を考える日」は自分たちの提供する医療、行動について振り返り、「患者の安全を守る」ことを熟慮する良い機会になったと思います。「安全」は医療の質において最も重要な要素です。この「安全」を担保できるよう、今後も職員一同研鑽していきたいと思います。



関本麻酔部長(医療安全部会長)

重症心身障害病棟「夏祭り」

療育指導室 保育士 田村 達也



＜夏祭り会場の様子＞

去る7月30日、31日の2日間、重症心身障害病棟で夏祭りを開催しました。

重症心身障害病棟にある療育訓練室に「金魚すくい」「かき氷」「綿あめ」「カラオケ」等の出店を設置し、職員やご家族とそれぞれのブースを回りながら夏祭りを体験していただきました。金魚すくいでは“ポイ”を使って金魚のレプリカを大量にすくいあげ嬉しそうに微笑む方、かき氷を食べ氷の食感に少し驚いた表情をされる方など、2日間の開催を通して様々な利用者さんの様子がみられました。

また、利用者の皆さんと職員と一緒に製作したお神輿を当日披露し、「わっしょい!わっしょい!」のかけ声にあわせて、会場内を練り歩きました。お神輿の登場により会場は一気にお祭りの雰囲気になり、お神輿が近くを通ると手拍子する利用者の方やかけ声にあわせて太鼓を叩く方など、積極的に参加される方もみられました。7月31日の昼食には、栄養管理室から行事食として夏野菜カレーやメロンゼリーを提供し、利用者の方に夏の味覚を堪能していただきました。



＜ヨーヨーすくい体験＞



＜お神輿で練り歩いている様子＞

今回の夏祭りは少人数のグループ制で行い、久しぶりにご家族参加を含めた行事となりました。時間や環境にゆとりをもちながら、ご家族や職員と一緒に賑やかな時間を過ごし、五感をたくさん使いながら夏祭りを楽しんでいただけたように思います。

また、今年度は、重症心身障害病棟の職員だけでなく、事務部やメディカルスタッフの職員も一緒に夏祭りを盛り上げました。利用者さんにとっても

交流の幅を広げられる貴重な機会になったと感じます。これからも利用者の皆さんにとって有意義な時間が提供できるよう考え続けていきたいと思っています。

地域医療支援チーム

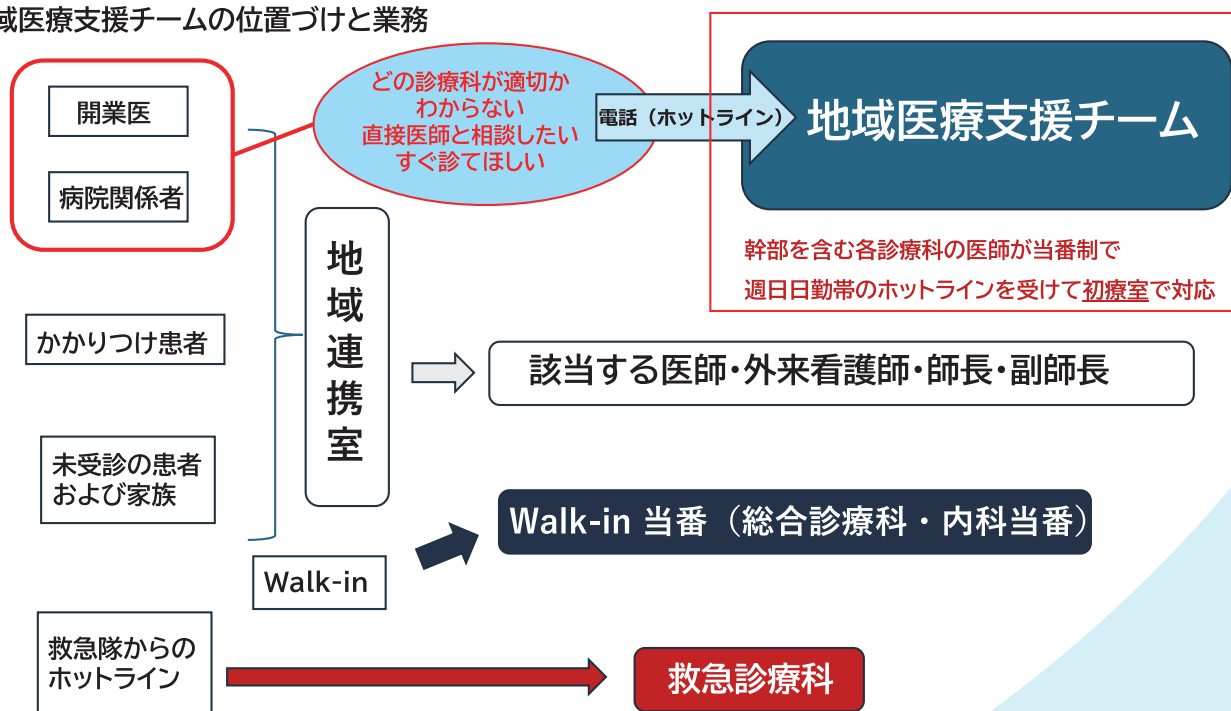
院長 高橋 章夫

当院は開院から10周年の大きな節目を迎え、渋川地区の総合病院として、地域医療に果たす役割はますます重要になってきています。とりわけ2040年にはピークに達するといわれる高齢者に対する医療は極めて重要であり、地域のクリニックや他の病院群、施設等との緊密な連携が必要です。高齢者は複数の疾患を抱えていることが多く、臓器横断、診療科横断的な取り組みをしなければなりません。

専門的な診療が主体である当院では、今までこのような患者さんの紹介をお断りしたり、受け入れ決定までの時間がかかり、当院で診療可能であるにもかかわらず他の病院に紹介されてしまう事例が問題となってきました。

そこで、問題解決のための試みとして、「どの診療科が適切かわからない」、「直接医師と相談し、すぐ診てほしい」という患者さんの場合、院外の医療関係者からの電話をホットラインで受けて対応する「地域医療支援チーム」を立ち上げました。各診療科から有志を集い、週日の日勤帯において、曜日ごとに振り分けた医師が対応します。本来であれば、総合診療科を本格的に再開させたり、老年期診療科を新設すべきなのかもしれませんが、まず既存の医師たちで、フットワークの良い地域連携体制を構築していきたいと考えています。何卒御支援下さいますようお願いいたします。

地域医療支援チームの位置づけと業務



渋川医療センター マスコットキャラクター

管理課長 林 宏樹

渋川医療センターは、まもなく開院10周年を迎えます。

これまで「北毛地域の基幹病院として地域の医療機関と連携し、その役割を果たす」という基本理念を大切にしながら、「患者さんと共に考える医療」を続けてきました。10周年を迎えるにあたり、日々の診療や取り組みをもっと身近に感じていただけるように、病院の顔となる「マスコットキャラクター」をつくることになりました。

キャラクターのデザインは、職員とそのご家族を対象に今年4月に募集しました。たくさんの素敵な作品が寄せられ、その中から幹部職員で話し合いを重ね、八塩副看護師長の作品に決めました。

キャラクターは「あじさいの妖精」です。渋川医療センターのみんなのやさしさに触れて仲間になりたいと思い、10年かけて病院のマークを手に入れ、ついに私たちのもとへ舞い降りてきた。そんな温かな物語が込められています。見た人が思わず笑顔になるような、可愛らしくあたたかい存在です。これから病院の広報誌やイベントなどで活躍し、みなさんに親しんでいただける存在になっていくはずです。

キャラクターの「愛称」を8月末まで募集し、138件の愛称が寄せられました。外来エントランスに設置した応募箱には、患者さんやご家族からたくさんの応募が寄せられ、さらに“渋川市の病院であることを大切にしたい”という高橋院長の思いから、市役所職員のみなさんにもご参加いただきました。政策戦略課をはじめ、多くの方々にご協力いただき、病院と地域とのつながりの温かさをあらためて感じることができました。ご応募いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

10周年という節目に生まれた新しい仲間。これからも地域のみなさんと共に歩む渋川医療センターを、どうぞ温かく見守っていただければ幸いです。愛称が決まりましたら、本誌やホームページで改めてご紹介いたします。ぜひ楽しみにお待ちください。



臨床工学技士

臨床工学技士 浅沼 恵子

臨床工学技士は、医療機器の専門職です。業務の1つとして生命維持管理装置（人工呼吸器や輸液ポンプなど）の点検整備を行っており、いつでも安心して医療機器が使えるよう整備をしています（写真1と2）。院内の様々な医療機器について中央管理を行っており、使用状況や故障状況を把握し、稼働可能な医療機器の不足が無いように努めています。また、点検整備業務の一環として病棟で使用中の人工呼吸器の動作中確認や、人工呼吸器回路交換を病棟の看護師と協力して行っています。

保守点検以外の業務として、消化器内科や消化器外科からの依頼で腹水ろ過濃縮を看護師と協力して行うほか、血液内科からの依頼で幹細胞採取業務を血液内科医師、看護師、他のメディカルスタッフとチームを組んで行っています。また、手術室では令和5年に導入した手術支援ロボットダビンチを用いた手術を行っていますが、消化器外科を始め呼吸器外科や泌尿器科医師とともに、手術室看護師とチームとしてロボット操作の補助業務を行っています。

また、医療機器の中央管理業務拡大と効率化を目的として、2025年7月から医療機器管理システムが導入され、医療機器台帳のデジタル化やQRコード管理を行っています（写真3）。

医療機器管理システム導入後の目標として、中央管理機器の種類を増やし、院内での医療機器稼働率向上と経費削減を目指しています。



写真1
いつでも使用できるように整備した人工呼吸器



写真2
貸し出しを待つ輸液ポンプ類



写真3
QRコードを活用した機器貸出し管理画面

皮膚・排泄ケア認定看護師



皮膚・排泄ケアは、創傷(きず)や褥瘡(じょくそう・床ずれ)のケア、ストーマ(人工肛門・人工膀胱)のケア、失禁(尿や便の漏れ)のケアについて、実践・指導・相談により、知識・技術の向上を図っています。



皮膚・排泄ケア認定看護師

真藤 由美子

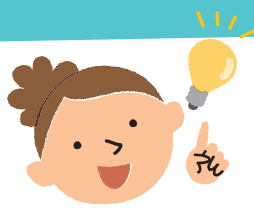
私は褥瘡管理の専従看護師として、褥瘡ケアチームと連携し活動を行っています。皮膚に少しでも傷があると痛みを伴い、疾患以外の苦痛が生じてしまいます。そのため、まずは褥瘡や皮膚障害が発生しないように予防すること、また治療のための酸素マスクや点滴等ルート類の圧迫による創傷や、外傷で生じるスキン-テア等から皮膚を守るケアを行っています。そのうえで褥瘡が発生した場合は、重症化しないようにポジショニング方法の検討、栄養管理が必要でありNST(栄養サポートチーム)も介入して改善を目指します。ストーマを造設した患者さんには、排泄経路が変更となるため、手術前はストーマのイメージが持てるように関わり、造設後はセルフケアが行えるよう外来で継続して支援を行っています。ストーマ外来ではストーマからの排泄物の漏れや皮膚障害による行動制限やQOL(生活の質)の低下を防ぐため、迅速に対応していますので、気になることがありましたらご相談ください。

皮膚・排泄ケア認定看護師

瀬戸川 貴子

排尿は、自立した生活をする上でとても重要ですが、一方でプライベートな部分のケアであり相談しにくいことも多いと思います。当院では、皮膚・排泄ケア認定看護師を中心にして、排尿ケアについて相談しやすい環境を整え、入院中から退院後の患者さんに生活環境を考えて、その人にあった排尿ケア用品などの提案をしています。

また当院には排尿ケアチームがあり、患者さんの排尿ケアが自立できるように支援を行っています。排尿ケアチームは、排尿ケアが実践できる看護師の教育・指導も行っており、院内全体で排尿ケアが実践できるように取り組んでいます。泌尿器外来でも排尿ケアの指導・相談を行っておりますので、何か気になることがありましたら、ご相談ください。



患者さんにとって耳よりな情報



後発医薬品のある先発医薬品(長期収載品)の選定療養について

薬剤師 小池 美紀

令和6年10月から、ジェネリック医薬品(後発医薬品)がある先発医薬品(長期収載品と言えます)について、先発医薬品を希望される場合には「特別の料金」がかかるようになりました。今回は「特別の料金」すなわち長期収載品の選定療養について紹介したいと思います。

「特別の料金」とは?

先発医薬品と後発医薬品の価格差の4分の1を、通常の自己負担とは別にお支払いいただく料金です。例えば先発品が1錠100円、後発品が60円の場合、差額の40円の1/4である10円が追加負担となります。

先発医薬品
※令和6年10月以降、
医療上の必要性がある場合

保険給付

患者
負担

後発医薬品

保険給付

患者
負担

先発医薬品と
後発医薬品の価格差

価格差の1/4相当

先発医薬品
※令和6年10月以降、
患者が希望する場合

保険給付

患者
負担

特別の
料金

患者負担の総額

厚生労働省が公開している「長期収載品と後発医薬品の価格比較リスト(2025年4月版)」に基づき、気管支ぜんそくやアレルギー性鼻炎に使用されるモンテルカストの価格差を以下にまとめました。

	薬剤名	薬価	1日1錠内服した場合の患者負担(3割負担の場合)		
			1日	1ヵ月(30日)	1年間(365日)
先発品(特別料金あり)	キプレス錠10mg	70.8円	27.3円	819円	約9964円
先発品(特別料金なし)	キプレス錠10mg	70.8円	21.24円	約637円	約7752円
後発品	モンテルカスト錠10mg	40.5円	12.15円	約364円	約4434円

このように後発品に切り替えることでお薬の代金が約半額になる可能性もあります。

△ ご注意いただきたいこと

- ・特別料金は消費税の対象であり、後発医薬品が複数ある場合は最も高い後発品との価格差を基に計算されます。
- ・計算の都合上、料金が薬価差の1/4ちょうどにならない場合もあります。
- ・医師や薬剤師が「後発品でも問題ない」と判断した場合に、患者さんが先発品を選ぶと対象になります。
- ・アレルギーなど医学的な理由がある場合は、特別料金の対象外です。

選定療養制度は、患者さん一人ひとりの負担を減らし、みんなで医療を支えていくための取り組みです。ジェネリック医薬品に切り替えることで費用が安くなる可能性があるため、「ジェネリック医薬品にできますか?」など、気になることがあれば医師や薬剤師に一度相談してみるのも良いかと思います。また、ジェネリック医薬品は国の基準を満たした安全なお薬ですので、安心してご使用いただけます。

お薬のことで不安なことがあれば、どうぞお気軽にご相談ください。



良い睡眠から健康になろう

臨床検査技師 木村 早希

良い睡眠には、「量（時間）」と「質（休養感）」が重要です。

睡眠時間は長すぎても短すぎても健康に悪影響を及ぼす可能性があります。朝目覚めたときに感じる「よく眠れた感覚（睡眠休養感）」は良い睡眠の目安となります。睡眠不足は、肥満、高血圧、2型糖尿病、心筋梗塞、脳血管障害の発症リスク上昇や症状の悪化に関連することが分かっています。健康を維持するためには、適切な睡眠時間を確保し、睡眠の質を高める工夫を日常生活に取り入れることが大切です。

ライフステージごとの適切な睡眠時間の目安

小学生は9～12時間、中学・高校生は8～10時間程度、成人は6時間以上の睡眠時間を確保する。高齢者は長い床上時間が健康リスクとなるため、寝床に8時間以上とどまらないことを目安に必要な睡眠時間を確保しましょう。

毎日を健やかに過ごすための睡眠5原則

①適度な長さで休養感のある睡眠をとる。

②光・温度・音に配慮した良い睡眠環境を整える。

寝室は暗くし、快適な室温と静かな環境で就寝する。

就寝前はスマートフォンなどデジタル機器の使用は避けることが望ましい。

③適度な運動、朝食摂取、就寝前のリラックスで、眠りと目覚めのメリハリをつける。

④嗜好品との付き合い方に気をつける。

カフェイン、お酒、たばこは控えめにする。成人は1日のカフェイン摂取量を400mg（コーヒー約3杯）以内にとどめ、特に夕方以降の摂取は避けるようにしましょう。

⑤眠れない、睡眠に不安がある場合は専門家に相談する。

睡眠時の無呼吸、大きないびき、起床時の頭痛、日中の強い眠気などの症状がある場合は、医師に相談しましょう。

睡眠の検査

当院では、睡眠時無呼吸症候群に関する「終夜睡眠ポリグラフィー検査」を実施しています。この検査は、睡眠中の脳波、呼吸、酸素飽和度、胸部や腹部の動きを測定することで、睡眠中の身体の状態を詳しく調べることができます。



睡眠環境・生活習慣・嗜好品に気を付けて良い睡眠を！

外来受付時間8時30分～11時00分 注) 担当医変更の場合もございますので、予めご了承ください。
 ※眼科の月曜日診療は紹介状をお持ちの方とご予約されている方のみ受診できます。
 ※整形外科は初再診にかかわらず、原則完全予約制です。
 ※第1・3・5水曜の循環器内科は完全予約制です。
 ※原則、午後は予約診察のみとなりますが、★印の診察については受付時間は15:00までとなります。
 ※(予約制)と記載がある場合は、予約患者さんのみの診察となります。
 ※再診予約の方については16:00まで再来受付機での受付が可能です。
 ※やむを得ない事情により突然の休診や診療医師変更もございます。ご了承ください。
 ◎予約変更について 受付時間:平日13～17時 TEL.0279-26-3010(予約専用) TEL.0279-23-1010(代表)

診療科	時間帯	月	火	水	木	金
消化器外科	午前	マキダ フジオ 蒔田 富士雄	ヨシナリ ダイスケ 吉成 大介	タナハシ ヨシフミ 棚橋 美文	マキダ フジオ 蒔田 富士雄	タナハシ ヨシフミ 棚橋 美文
	午後		イチオカ ケン 市岡 健	★助川 晋作 (肛門科・消化器外科) (第1,3,5週13:30~)		
	午前		エノキダ ヤスアキ 榎田 泰明		ヌマガ ユキ 沼賀 有紀	
	午後				術前外来	
呼吸器外科	午前	オノザト リョウイチ 小野里 良一 (第1,3週) カワシマ オサム 川島 修 (第2,4,5週)		カワシマ オサム 川島 修		カワシマ オサム 川島 修
	午前			オノザト リョウイチ 小野里 良一 アヅミ ジュン 渥貫 潤		オノザト リョウイチ 小野里 良一 アヅミ ジュン 渥貫 潤
脳神経外科	午後			ヒラト マサブミ 平戸 政史 (予約)		ミヤギシマ タカアキ 宮城島 孝昭
	午前	ゴウダ ツカサ 合田 司	【予約制】タカハシ アキオ 高橋 章夫	ゴウダ ツカサ 合田 司	【予約制】タカハシ アキオ 高橋 章夫	ゴウダ ツカサ 合田 司
	午後		オオサワ ショウ 大澤 祥(群大)	ミヤギシマ タカアキ 宮城島 孝昭		イベ ヨウコ 伊部 洋子(群大)
	午前 午後(予約)		ヒラト マサブミ 平戸 政史		ヒラト マサブミ 平戸 政史	
ニューロ モデュレーション外来	午後			★ニューロ モデュレーション外来 14:00~		
整形外科 (予約制)	午前	ワリタ トシロウ 割田 敏朗	クシマ ノブマサ 九嶋 延昌		カナザワ サエコ 金澤 紗恵子	
	午後					オカムラ ヨウイチ 岡邨 興一 【リウマチ専門外来】
	午前				術前外来	
	午後	カナザワ サエコ 金澤 紗恵子	術前外来	イヅカ ヨウイチ 飯塚 陽一	クシマ ノブマサ 九嶋 延昌	ワリタ トシロウ 割田 敏朗
泌尿器科	午後	ハンドケア		イヅカ ヨウイチ 飯塚 陽一		
	午前	タムラ ヨシミ 田村 芳美	タムラ ヨシミ 田村 芳美	モリムラ ユウキ 森村 友紀	タムラ ヨシミ 田村 芳美	ワタスキ ショウ 綿貫 翔
	午後(予約)	タムラ ヨシミ 田村 芳美	ヤマグチ マサカズ 山口 将和	タムラ ヨシミ 田村 芳美	タムラ ヨシミ 田村 芳美	ワタスキ ショウ 綿貫 翔
	午前	ヤマグチ マサカズ 山口 将和	ワタスキ ショウ 綿貫 翔	タムラ ヨシミ 田村 芳美	ヤマグチ マサカズ 山口 将和	モリムラ ユウキ 森村 友紀
耳鼻咽喉科	午後(予約)	ヤマグチ マサカズ 山口 将和	ワタスキ ショウ 綿貫 翔	タムラ ヨシミ 田村 芳美	ヤマグチ マサカズ 山口 将和	タムラ ヨシミ 田村 芳美
	午前10~ 12時	カナヤマ アスサ 金山 あずさ(群大)				
	午前			オカモト アヤコ 岡本 彩子		オカモト アヤコ 岡本 彩子
	午後					
皮膚科	午前	タカハシ アユミ 高橋 亜由美	タカハシ アユミ 高橋 亜由美	タカハシ アユミ 高橋 亜由美	タカハシ アユミ 高橋 亜由美	タカハシ アユミ 高橋 亜由美
	午前	タカハシ ヨシノ 高橋 芳乃	タカハシ ヨシノ 高橋 芳乃	タカハシ ヨシノ 高橋 芳乃	タカハシ ヨシノ 高橋 芳乃	タカハシ ヨシノ 高橋 芳乃
乳腺・内分泌外科	午前		ヨコエ タカオ 横江 隆夫	ヨコエ タカオ 横江 隆夫		ヨコエ タカオ 横江 隆夫
	午後(予約)			ヨコエ タカオ 横江 隆夫		ヨコエ タカオ 横江 隆夫
	午前	サトウ アヤコ 佐藤 亜矢子	ヨコエ タカオ 横江 隆夫	サトウ アヤコ 佐藤 亜矢子		ヨコエ タカオ 横江 隆夫
	午後(予約)					
眼科	午前		グンダイシ 群大医師	グンダイシ 群大医師		
	午後(予約)					
歯科口腔外科 (予約制)	午前(初診)	アサトリ ヨウスケ 朝鳥 洋介(群大)				
	午前(再診)	ネギシ アキヒデ 根岸 明秀	ネギシ アキヒデ 根岸 明秀	ネギシ アキヒデ 根岸 明秀	ネギシ アキヒデ 根岸 明秀	ネギシ アキヒデ 根岸 明秀
歯科口腔外科 (予約制)	午前	ネギシ アキヒデ 根岸 明秀	ネギシ アキヒデ 根岸 明秀	ネギシ アキヒデ 根岸 明秀	ネギシ アキヒデ 根岸 明秀	ネギシ アキヒデ 根岸 明秀
	午後				ネギシ アキヒデ 根岸 明秀	ネギシ アキヒデ 根岸 明秀
小児科	午前	オガワ マサル 小川 将(群大) (第1,3,5週)			オガワ マサル 小川 将(群大) (第1,3,5週)	
	午後	タニグチ アキエ 谷口 明恵(群大) (第2,4週)			タニグチ アキエ 谷口 明恵(群大) (第2,4週)	

セカンドオピニオン担当医表

独立行政法人国立病院機構 渋川医療センター（令和7年10月1日現在）

科 別	予約時間	月	火	水	木	金
呼吸器内科 (肺腫瘍)	午後3時30分～	吉井 明弘		吉井 明弘		
呼吸器外科	午前中	川島 修				
血液内科	午後2時～			斉藤 明生		入内島 裕乃
乳腺・内分泌外科	午後2時30分～			佐藤 亜矢子		
消化器外科	午後				吉成 大介 沼賀 有紀 榎田 泰明	
放射線科	午後3時～		中村 勇司	神沼 拓也	松浦 正名	
皮膚科	午後3時～	高橋 亜由美				
泌尿器科	午後3時30分～					田村 芳美
脳神経外科	午後			宮城島 孝昭		

※対象者：原則として患者さん本人、患者さんの同意を得た家族 費用：30分毎に5,500円
※お問い合わせ先：TEL0279-23-0626 地域医療連携室(直通)

●患者さんの権利●

1. 最善の医療サービスを受ける権利

患者さんは差別されることなく、適切な医療を受ける権利があります。

2. 人格・人権を尊重される権利

患者さんは個人としての人格・人権を尊重され、医療を受ける権利があります。

3. 知る権利

患者さんは、自分が受ける処置や検査、治療に関して、十分な分かりやすい説明を受ける権利があります。また、知らせてもらいたくないことについては、その希望も受け入れられます。

4. 自己決定権

患者さんは、十分な情報と説明に基づいて、自分の意志により医療行為を決定する権利があります。

5. プライバシーを保護される権利

患者さんの診療上の情報はその秘密が守られ、第三者には開示されない権利があります。

がん相談支援センター

- がんに関するご相談は「がん相談支援センター」でお受けします。

担当：ソーシャルワーカー

電話：0279-23-1010代（受付時間は平日8:30～17:15です）

- メールによるご相談は、下記にて終日受け付けておりますが、回答は若干の日数を要する場合がございます。

E-mail: 207-ShibukawaMC_mbx@mail.hosp.go.jp

看護の理念

患者さんの立場にたち、心あたたかく、信頼に応える看護を提供します

看護の基本方針

1. 患者さんの尊厳と権利を尊重し、共に考える看護を実践します
2. 患者さんの気持ちに寄り添い、思いやりとまごころを込めた看護を実践します
3. 根拠に基づいた、安全で安楽な質の高い看護を実践します
4. 地域の人々と連携を図り、患者さんの生活の質の維持・向上に努めます



猛暑と残暑が例年にも増して厳しい夏がようやく終わり、秋の気配を感じるようになりました。さて今回は、今年から開始した取り組みをいくつか紹介しました。地域医療支援チームは、地域の医療機関とこれまで以上に連携を深めるため、院長肝いりで結成したチームです。また、開院10周年をむかえる当センターのマスコットキャラクターも、当センターの看護職員が自発的に発案して完成しました。非常に多くの方から「愛称」を提案していただき、どれも良い提案なので迷っている状況ですが、次回（No.120）にはお披露目できる予定です。どうぞ期待してお待ちください。（T.S）



独立行政法人国立病院機構 渋川医療センター

〒377-0280群馬県渋川市白井383番地 電話0279-23-1010代 FAX0279-23-1011
【ホームページ】<https://shibukawa.hosp.go.jp>